厚年

KOSEI
NENKIN

ゆふいん

No.201

発行所

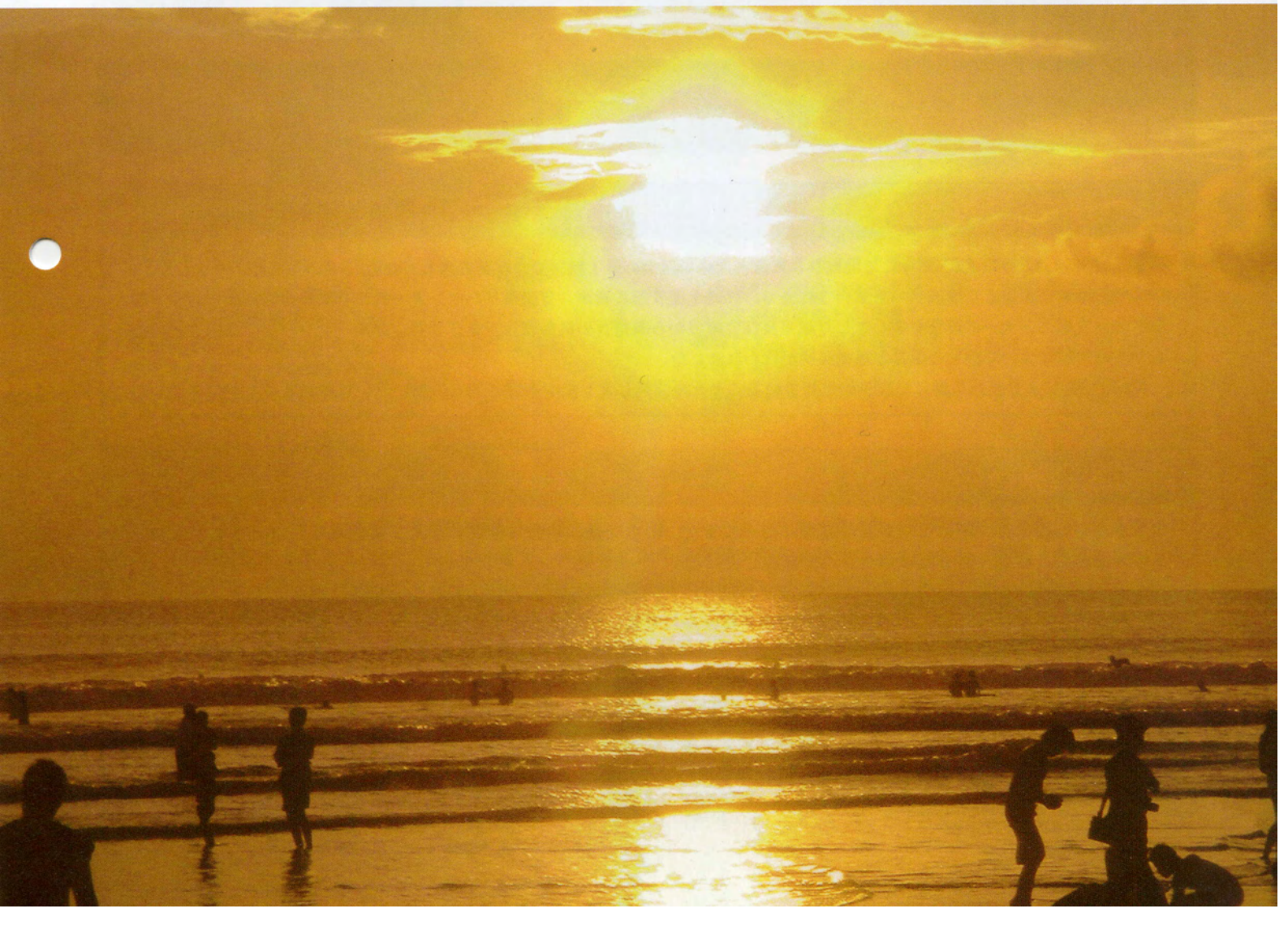
湯布院厚生年金病院
由布市湯布院町川南252
TEL.0977-84-3171

発行人　有田　眞
編集人　室岡　龍郎

2006.〈夏号〉

■目　次■

●第３回大分県リハビリテーション支援センター・
大分県地域リハビリテーション研究会合同研修会に参加して…2
●病院機能評価の付加機能「リハビリテーション機能」の認定…2
●地域リハ調整者連絡協議会　第１回研修会……2
●野球観戦旅行……2
●存続の会発足２周年を前に……3
●フリージアの花束……3
●第９回　山ぼうし会開催……3
●看護研修会に内野俊郎先生をお招きして……4
●第２回厚生年金病院　あさぎりフェスティバル開催……4
●６月14日　防災訓練が行われました……4
●HAPPY WEDDING!……4
●天使が舞い降りた……4
●新採用……4
●論文・学会発表……5



第3回大分県リハビリテーション支援センター・大分県地域リハビリテーション研究会合同研修会に参加して

リハビリテーション室　米倉　正博

平成18年7月2日、第3回大分県地域リハビリテーション研究会・大分県リハビリテーション支援センター合同研修会が、別府ビーコンプラザにて開催された。

合同研修会午前の部は、「平成17年度地域リハビリテーション活動報告と18年度の方針」とし10圏域の実績と展望が報告された。また、「回復期から在宅へ、ネットワーク構築に向けた私達の取り組み」と題し、霞ヶ関南病院の院長齋藤正身先生、リハ部長岡持利亘先生より、回復期病棟の関わりと在宅へ向けての取り組みの講演を頂いた。午後の部では、「地域包括支援センターの連携について」と題し、大分県福祉保健部健康対策課健康増進班参事の甲斐久美子先生からは、介護予防と県下の現状を踏まえ地域包括支援センターの役割とその重要性について講演を頂いた。

今回は特に、霞ヶ関南病院の取り組みは興味深く、「つながり」をキーワードに患者を主体とした関わり、スタッフ同士の連携、在宅リハ・地域への継続性を持った取り組みが具体的に説明を頂き、当院での取り組みと共通した考え方も窺え、共感する面が多くあった。

一方、霞ヶ関南病院の特徴として、集団でのお茶会・作品作り・日曜レク等の多くの種目を活用して日々の活動・参加を促進し、患者の潜在能力を引き出す工夫が病院の取り組みとして行われており興味が持たれた。これらの他病院の活動を知る機会を得て当院でもより一層の訓練・治療や生活活動の工夫が必要であると強く感じた。

また、各圏域の広域支援センターの活動報告や地域包括支援センターの重要性においては、地域リハビリテーションの活動が年々活発となっていると共に、より一層の組織的な連携が望まれることを再認識する機会となった。今後も当院の県リハビリテーション支援センターとしての活動に向け、微力ながらより一層の充実に向け努めていきたいと考える。

財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の付加機能「リハビリテーション機能」を受審し、平成18年7月24日付で認定されました。

地域リハ調整者連絡協議会　第1回研修会

ムーミン　稲積　幸子

平成18年8月23日(水)、県庁にて地域リハ調整者連絡協議会の第1回研修会が開催され、会員23名の参加がありました。

中里健康対策課長より地域リハ事業のこれまでの経過を振り返る講演、有田県リハセンター長より調整者の活動に対する提案や包括支援センターの連携を中心とした講演及び2圏域から調整者の活動報告がなされた。グループワークでは調整者のこれからの活動について活発な議論と意見交換が行われました。

今回、地域により実践活動に温度差が生じていることを再認識しましたが調整者個人の熱い思いに触れることができました。

野球観戦旅行

検査室　D.K

さぎり会旅行の第一陣目となる野球観戦に行ってきた。これで病院の野球観戦に参加するのも4回目（うち1回はストの為断念）となり今回も気の合う仲間と参加しました。

途中、都市高速が事故の為渋滞して到着が少し遅れ試合開始が近づいていたので弁当を味わう暇なくかきこんでドームに滑り込んだ。ホークス対西武の試合が始まりビール片手に見ていると序盤からホークスペースで3回の裏にズレータの満塁ホームランで6-1となり今回は楽勝だな～と安心していたら6回西武の猛攻で6-5と点差をつめられヒヤヒヤしましたが最後はホークスが追加点を入れ8-5でホームラン飛び交う乱打戦を制し勝利の花火も見る事が出来ました。その夜、博多の街にくりだし酒とラーメンに舌鼓をうったのは言うまでもありません!次の日は呼子の朝市に行った後イカを食べ、バスのちょっとしたエンジントラブルや豪雨にみまわれたものの、みんな無事に帰宅でき、充実した旅行でした。あっ!忘れてましたが1日目は自分には場違いな九州国立博物館にも行き歴史を堪能?してきました。

存続の会発足2周年を前に

厚生年金病院と保養ホームの存続と充実を願う会　山本　美江子

多くの方々に支えられてきた運動も会結成から２周年を迎えようとしています。

７月14日に開催された第五回世話人総会では県、由布市長初め県・市議会議員、観光協会長、旅館組合長、農業組合長の方々もご出席、ご挨拶、ご意見をお寄せ下さるなど協力・共同の環がさらに広く太くなりました。今後は地域における厚生年金病院と保養ホームの役割を名実ともに大きくするかどうかにかかっていることを確認し「医療・保健・福祉の町つくりのために湯布院の厚生年金施設の存続に関する検討会議（仮称）」の設立へと広がってきました。

昨年秋のクアージュゆふいんでの「報告と交流の会」以降の活動は政府、国会への要請を10月と1月、8月に行い、その間12月には厚生年金病院の存続運動「全国情報・連絡センター」が立ち上がり、4月はじめにセンターの研修会を湯布院で開きました。各地の会と連携が広がることで、現状を正しく把握し、それぞれが自分の施設と地域の独自性の上に立って運動を進めるようになってきたと思います。

周知のように、国は年金病院の公的存続の検討と保養ホームの機能の維持を約束しました。今年の3月末までに出される予定であった整理計画は未だ出ていませんが私達の運動が大きなうねりになって押し寄せていることは否めません。

新しい政府になった10月には第７次の政府・国会要請行動を行い、国会議員会館内で超党派議員との集会開催、著名人アピール発表などを行い、ダイナミックな運動を繰り広げたいと計画しています。

それぞれの地域で自分達の施設が如何に必要とされているかを知り、より広く地域ぐるみ、行政・住民ぐるみの運動を更に広げ、職員も地域のなかでの活動をしていくことが大事だと思います。

保養ホームの旅館業法適用の問題も地元にとって大きな問題となってきます。

当初の予定と大きくずれて存続運動長期化の様相は明らかです。

運動を続ける体力、気力に加え財政基盤も皆様に負うところが大きくなりますがよろしくお願いします。

限られた期間です。将来に悔いを残さないように頑張りましょう。

フリージアの花束

『Let's 農業』

看護部Ｎ．Ｉ

先日、農業体験に参加した。

熟れた野菜や果物を採るだけのものではなく、今回は種から植え、草むしりをし、苗が成長して美味しいそうな実をつけるまでの流れを体験した。

これが予想していたより楽しかった！

苗がかわいくて、かわいくて…、草むしりは大変で汚れるけど、収穫した時の喜びは変えられなかった。

そして、自分で収穫した野菜のおいしいこと！おいしいこと!!

更に農業青年との交流も楽しく（変な意味ではなく…）農業に対して熱い思いを持っている青年がたくさんいることに、私はものすごく感動してしまった。

こんな魅力的な青年たちと、おいしい野菜に惹かれて、今回で２回の参加となりました。

興味のある方、来年もしよろしければ、どなたか参加しませんか？

第9回 山ぼうし会開催

６月４日（日）に、第９回山ぼうし会が開催されました。午前中は眼科・立川貴寿先生が来院され講義をして頂きました。眼科受診の必要性を実感して頂けた様に思います。昼食は院内で栄養部手作りの物を戴きましたが、食事と共に通所食堂から見える風景にご満足された様子でした。午後は薄雲の中、病院から由布院公民館まで、オリエンテーリングを行いました。

軽く汗をかき、冷たい飲み物やお絞りが気持ちよい季節で、談笑しながらの散歩を楽しめました。結果は、糖尿病に関するクイズの正解率は高かったのですが、一般問題で勝敗に差が出たようです。今回患者・ご家族26名、スタッフ29名（新人看護職員９名のボランティア参加あり）の参加がありました。次回第10回山ぼうし会は、10月27日（金）に予定しています。この日は第２回あさぎりフェスタもありますので、参加をお待ちしています。

看護研修会に内野俊郎先生をお招きして

看護部　平井　雅子

７月の看護研修会に「精神科領域で使われる薬物の作用と副作用」～特に認知症を伴う高齢者の場合～のテーマで久留米大学神経精神医学講座の内野先生をお招きし、待望の講義、第２弾をして頂きました。

精神科の薬は怖いという印象が強くありましたが、生じうる副作用を把握していれば副作用を恐れる必要もなく、評価を視野に入れた観察をしていくことで、より患者さんに合った薬物療法を導入できることを学びました。

講義の冒頭では第一選択は非薬物療法であるという事を聞きました。不穏な患者に対し“即薬物”ではなく、まず身体因（疼痛や低酸素など）をアセスメントできる看護師になっていきたいと感じました。

第2回厚生年金病院 あさぎりフェスティバル開催

昨年から装いも新たに始まったあさぎりフェスティバルが今年も10月27日の13時～16時まで正面駐車場、正面ホール、外来等を利用して開催されます。当日は午後、休日体制で休診となります。昨年以上に盛り上げましょう。

まつり実行委員名簿

委員長	桑野 慎一郎			
副委員長	佐藤 浩二			
リハビリテーション室	辛嶋 美佳	大野 沙織	松浦 圭佑	
薬局・放科・中検	河野 大吾	江澤 朋子		
MSW・CP	衛藤 智美	森 みどり		
栄養部	後藤 菜穂子	佐藤 千枝子		
ムーミン	田中 聡	佐藤 有美		
東２病棟	日野 ますみ	佐藤 睦美		
東３病棟	森山 志枝	安田 絵李菜		
東４病棟	入部 春美	泉 美沙子		
西３病棟	安心院 登代美	松山 恵理香		
西４病棟	後藤 美鈴	財津 瞳		
外来	麻生 郁代	佐藤 友枝		
中材・手術室	右田 喜代美	岩下 喜美恵		
事務室・病歴	佐藤 悦雄	北野 正太	福田 浩幸	後藤 史門

6月14日 防災訓練が行われました

夜間の災害を想定して、警備当直者も参加して実践さながらに行われました。その後、新入職員を中心に消火器による初期消化訓練を行いました。

【栄養部　調理師】
麻生　博
【栄養部　栄養士】
知美〈旧姓／健木〉
（平成18年7月7日ご成婚）

【理学療法士】
梶原　洋　（平成18年6月30日）二男：拓海（たくみ）君誕生

新採用 よろしくおねがいします！

H18. 6～H18. 8迄

【内科医員】岡崎　敏郎（平成18年６月１日付）
【言語聴覚士】田口ひとみ（平成18年６月１日付）
【看護師】大塚あゆみ（平成18年７月１日付）
【看護師】阿南　美穂（平成18年７月１日付）
【看護助手】豆田　万実（平成18年７月１日付）
【整形外科医員】馬場美奈子（平成18年８月１日付）
【看護助手】佐藤　望（平成18年８月１日付）

―論文・学会発表―

論文

著者	題名	雑誌名
【リハビリテーション室】 森元大樹	1枚の絵 竹の子に思いをこめて	精神認知とOT vol.3 No.3　P 233
【リハビリテーション室】 佐藤浩二	多職種連携による広域的転倒予防事業 ～大分県リハビリテーション支援センターでの取り組み～	コミュニティーケア vol.8 No.8　P 66～69
【リハビリテーション室】 熊谷隆史	1枚の絵 初めてのハガキ	精神認知とOT vol.3 No.4　P 337
【リハビリテーション室】 木村暢夫	経口摂取のアセスメント 摂食・嚥下状態に合わせたリハの実際	高齢者　リハ・ケア実践 vol.4 No.2　P 4～13

学会発表

発表者名	題名	学会名／発表年月日
【栄養部】 後藤菜穂子	湯布院厚生年金病院における NCM システム構築に向けて	日本健康・栄養システム学会 【平成 18 年 6 月 24 日】
【リハビリテーション室】 佐藤友美	脳卒中患者の退院後の参加につながる 入院中の活動への働きかけの成果 ー環境と活動・参加の関係性よりー	第 40 回 日本作業療法学会 【平成18年6月30日～7月2日】
【ムーミン】 田中聡	通所リハでの生活機能向上へ向けた実践 ー機能偏重訓練から脱却した症例を通してー	第 40 回 日本作業療法学会 【平成18年6月30日～7月2日】
【リハビリテーション室】 丸渕さゆり	脳卒中患者に対する運転シミュレータ利用効果の一考察	第 40 回 日本作業療法学会 【平成18年6月30日～7月2日】
【看護部】 木本ちはる	食を支えるチーム活動	日本看護学会　成人看護Ⅱ ワークショップ 【平成 18 年 8 月 31 日】

その他研究会

発表者名	題名	学会名／発表年月日
【ムーミン】 五賀誠	訪問リハビリテーション 充実に向けた地域連携の課題	第 44 回　脳卒中懇話会 【平成 18 年 7 月 22 日】
【ムーミン】 永楽有弘	通所リハにおける介護福祉士の役割 ～多発性脳硬塞による軽度認知症と 生活不活発病をきたした症例を通して～	第 44 回　脳卒中懇話会 【平成 18 年 7 月 22 日】

東２病棟主任木本ちはるさんが日本看護協会の摂食嚥下障害看護分野の認定看護師に認定されました。
内容は改めて御紹介します。

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

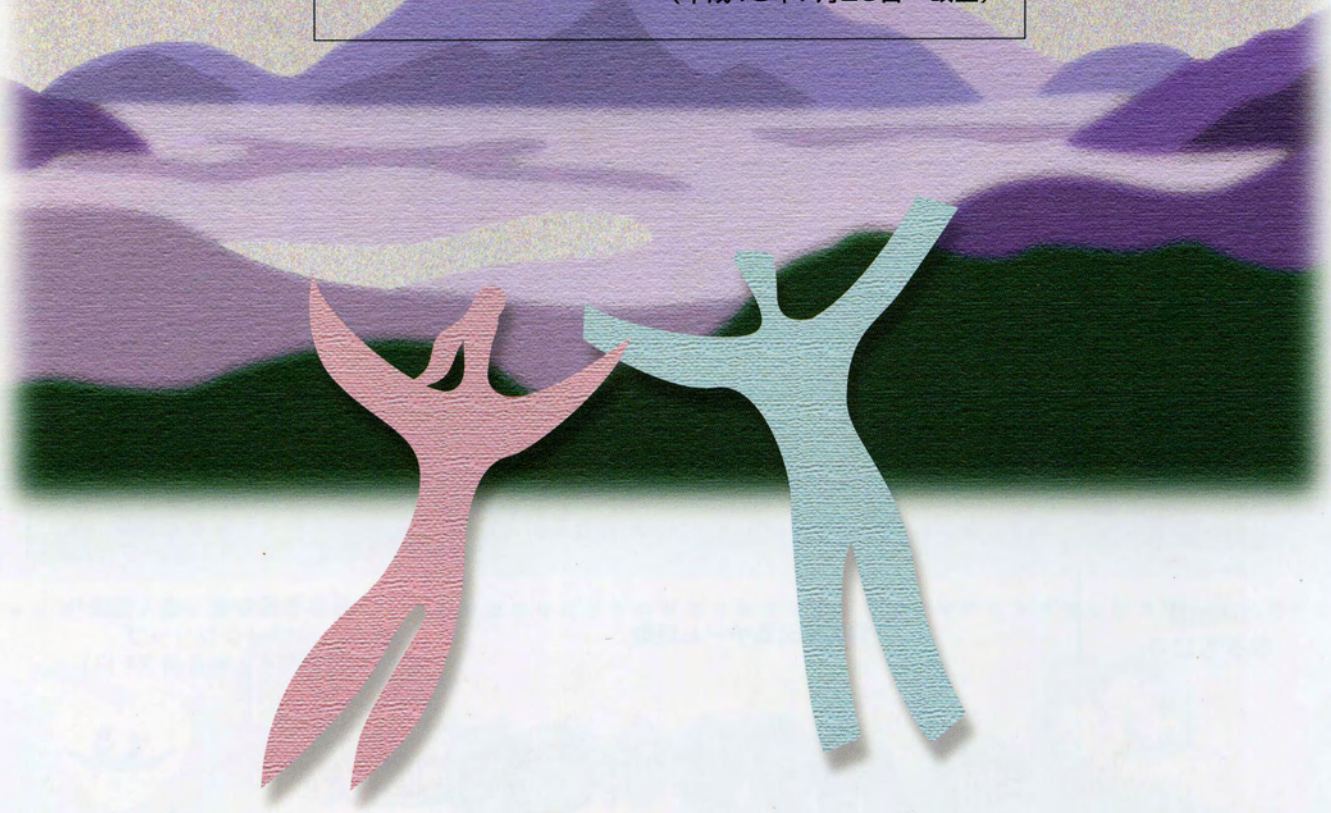
病院の理念

成人病リハビリテーションを中心に、地域の医療を担う拠点病院としての誇りと自覚に立ち、患者さまを大切に、いつも笑顔で真心こめて高度な医療を提供します。

基本方針

1. 患者さまの権利を尊重し、患者さま中心の医療を実践します。
2. 全ての職種が手を握り、暖かいチーム医療に徹します。
3. 地域リハビリテーション活動を、積極的に支援・推進します。
4. 医療人教育・研修・臨地実習の拠点として、重要な役割を担います。

（平成18年7月26日　改正）



― 編 集 後 記 ―

皆さん、夏の思い出はたくさん作られたでしょうか？
忙しい秋が来ます。体調管理をしっかりしましょう。〈J〉

■編集委員／桑野慎一郎　繁田 聖子　牧野 秀昭　米倉 正博　近藤真智子　大野加代子　木部 慎一　大野 沙織
●イラスト／片野 真美　●表紙写真／パリ島クタビーチ：遠藤寿一